

1 児童の姿

(1) 全体として

「児童の姿」を対象にした質問に対する児童・保護者・地域住民・学校職員の解答を、「『とても』と『まあまあ』を合わせた肯定的な回答（80%を基準にした到達度）」と、「80%に到達しなかった解答」について集計し、質問項目数に対する割合で表したものが図1である（含昨年比）。

	児童		保護者		地域		職員	
	R1	R2	R1	R2	R1	R2	R1	R2
質問項目数	22		17		11		15	
「とても」 + 「まあまあ」が80%以上と回答した質問項目数 (質問項目数に占める割合)	20 91%	19 \86%	10 59%	11 \65%	10 91%	8 \73%	12 80%	15 \100%
「とても」 + 「まあまあ」が80%未満と回答した質問項目数 (質問項目数に占める割合)	2 9%	3 \14%	7 41%	6 \35%	1 9%	3 \27%	3 20%	0 \0%

- ①児童は、22項目中19項目で「80%以上」の目標に到達している。
- ②保護者は、17項目中11項目で「80%以上」の目標に到達している。
- ③地域住民は、11項目中8項目で「80%以上」の目標に到達している。
- ④学校職員は、15項目中15項目で「80%以上」の目標に到達している。

(2) 成果

①重点目標「相手のことを考えて行動することができる児童の割合を80%以上にする」の到達状況

ア 保護者からみた児童の姿「お子さんは相手の考えを受け止めてから自分の考えを伝えていますか」が80%以上に到達した。

イ 学校職員からみた児童の姿「子供たちは友達を『さん』『くん』を付けて呼んでいますか」、「子供たちは相手の話を最後まで聞いていますか」、「子供たちは相手の考えを受け止めてから自分の考えを伝えていますか」が80%以上に到達した。

②昨年度との比較による肯定的回答率の上昇状況（5%以上）

ア 児童からみて上昇した項目

- ・友達を「さん」「くん」を付けて呼んでいますか

イ 保護者からみて上昇した項目

- ・お子さんは相手の考えを受け止めてから自分の考えを伝えていますか

ウ 学校職員からみて上昇した項目

- ・子供たちは「ごめんなさい」の気持ちを伝えていますか
- ・子供たちは友達を「さん」「くん」を付けて呼んでいますか
- ・子供たちは「あたたかな言葉」を使っていますか
- ・子供たちは相手の話を最後まで聞いていますか
- ・子供たちは相手の考えを受け止めてから自分の考えを伝えていますか
- ・子供たちは学校で自分の役割を果たしていますか
- ・子供たちは学校で進んで学習に取り組んでいますか
- ・子供たちは学校で難しくてもあきらめずに学習に取り組んでいますか

(3) 課題

「80%以上」の目標に到達しなかった質問項目とその割合を表したものが図2である（含昨年比）。

図2 「とても」 + 「まあまあ」が80%未満と4者のいずれかが回答した質問項目とその割合(%)

No.	「とても」 + 「まあまあ」が80%未満と 4者のいずれかが回答した質問項目	児童		保護者		地域		職員	
		R1	R2	R1	R2	R1	R2	R1	R2
4	友達を「さん」「くん」を付けて呼んでいますか	70	↗78	74	↗78	73	↗76	67	↗81
5	「あたたかな言葉」を使っていますか	91	↘88	81	↗84	91	↘73	85	↗91
6	相手の話を最後まで聞いていますか	93	93	77	↗79	87	↗94	67	↗85
10	友達の良いところを見付けていますか	90	↗91	96	96	84	↘79	100	↘97
18	家庭で、進んで、学習に取り組んでいますか	84	↘83	70	↘69				
19	家庭で、難しくてもあきらめないで、学習に取り組んでいますか	84	↗85	77	77				
20	朝や休み時間、外に出て体を動かして遊んでいますか	82	↘78					96	↘91
21	夜早く寝ていますか	70	70	71	↗72				

- 4 「児童は友達を『さん』『くん』を付けて呼んでいますか」について
- ・4者とも80%未満だが、いずれも昨年度より上昇している。保護者自由記述より、親しさの表れという認識で「呼び捨て」「あだな」などで呼んでいることもあるようだが、改善傾向にある。
- 5 「児童は『あたたかな言葉』を使っていますか」(地域15人中4名が「あまり」と解答) } について
- 10 「児童は友達の良いところを見付けていますか」(地域15人中3名が「あまり」と解答) }
- ・地域の回答が昨年度より下がり80%未満となったが、児童・保護者・職員の回答は低くはない。学校や家庭以外の場での過ごし方についての意識付けが必要と考える。
- 6 「児童は相手の話を最後まで聞いていますか」について
- ・保護者の回答が80%未満だが、昨年度よりわずかに上向きである。地域、職員は昨年度より大きく上昇している。児童自身は肯定的な評価をしている。家庭では、自己主張が先に出たり、保護者の期待する姿を求められたりすることが考えられる。
- 18 「児童は家庭で進んで学習に取り組んでいますか」 } について
- 19 「児童は家庭で難しくてもあきらめないで学習に取り組んでいますか」 }
- ・児童の回答に対し、保護者の回答が低い。頑張っているのにもっと頑張るように期待されているのか、保護者の見えないところで頑張っているのか、頑張っていないのに頑張っていると思っているのか。家庭学習の意義と内容や量、学習環境の確認が必要と考える。
- 20 「児童は朝や休み時間、外に出て体を動かして遊んでいますか」について
- ・児童の回答が低めなのに対し、職員の回答が高い。昨年度に比べるといずれも低下しているのは否めない。コロナ禍にあることが何らかの影響を及ぼしていると考ええる。
- 21 「児童は夜早く寝ていますか」について
- ・児童、保護者ともに一致した結果である。睡眠不足は、学校生活や健康にも支障を来しかねない。遅くまで起きている理由は何か、各々の家庭で話し合い・改善が必要と思われる。
- その他
- ・児童自身の評価に比べ、大人の評価が低い。児童が捉えている姿と保護者や職員が期待する姿に差があること、児童のメタ認知能力、地域住民や学校職員から見れば、評価対象が複数であることが影響していると考ええる。

2 取組

(1) 全体として

保護者・地域住民・学校職員の「取組」に対する質問の解答を、『とても』と『まあまあ』を合わせた肯定的な回答（80%を基準にした到達度）」と、「80%に到達しなかった解答」について集計し、質問項目数に対する割合で表したものが図3である（含昨年比）。

	保護者		地域		職員	
	R1	R2	R1	R2	R1	R2
質問項目数	3		2		3	
「とても」 + 「まあまあ」が80%以上と回答した質問項目数 (質問項目数に占める割合)	2 67%	3 100%	2 100%	1 50%	3 100%	3 100%
「とても」 + 「まあまあ」が80%未満と回答した質問項目数 (質問項目数に占める割合)	1 33%	0 0%	0 0%	1 50%	3 0%	3 0%

- ① 保護者は、3項目全て「80%以上」の目標に到達している。
- ② 地域住民は、2項目中1項目「80%以上」の目標に到達している。
- ③ 学校職員は、3項目全て「80%以上」の目標に到達している。

(2) 成果

①重点目標「相手のことを考えて行動することができる児童の割合を80%以上にする」の到達状況

ア 保護者の取組「心にゆとりを持って子供の思いを笑顔で受け止めていますか」が80%以上に到達した。

(3) 課題

「80%以上」の目標に到達しなかった質問項目とその割合を表したものが図4である（含昨年比）。

No.	「とても」 + 「まあまあ」が80%未満と 3者のいずれかが回答した質問項目	保護者（%）		地域（%）		職員（%）	
		R1	R2	R1	R2	R1	R2
28	子供たちに地域行事への参加を呼び掛けていますか			93	75		

質問項目 28 については、コロナ禍で地域行事が開催できる状況ではなかったからに他ならない。コロナ終息を願うばかりである。

3 成果や課題に対する今後の対応(職員による反省会等から)

(1) 友達に「さん」「くん」を付けて呼ぶこと

○今年度目標到達には至らなかったものの、肯定的な回答の割合が上昇した要因として考えられることは？

- ・継続した目標になっていること。(継続して指導している。)
- ・授業の中で「さん」「くん」を使っていること。
- ・日頃からの声掛け。
- ・授業中と、公私での使い分けが大切。
- ・場所により使い分けしている。「さん」「くん」を付けることに違和感を覚える子もいる。
- ・「さん」「くん」を付けないことが、仲良し(親しみ)の表れと捉えている児童、保護者もいる。

→TPOに応じた使い方も受け入れつつ、次年度も継続して指導していく。

(2) 相手の話を最後まで聞く態度

- 保護者からみると目標達成には至らなかったものの、肯定的な回答の割合が上昇。地域・職員においては大きく上昇。その要因として考えられることは？
 - ・コロナの影響で、全体的に静かに生活していた。
 - ・マスクを付けていることもあり、よく聴かないと聞こえないので、より聴こうとしている。
 - ・大事な話は聞くという姿勢が身に付いている。
 - ・聴く態度については指導を継続している。
- 次年度も継続して指導していく。

(3) 「あたたかな言葉」を使う、「友達の良いところ」を見付ける態度

- 地域からの肯定的な回答の割合が低いことの要因として考えられることは？ 子供にどう指導するか？
地域にどんな協力を求めるか？
 - ・場に応じて使い分けられていることも考えられる。
- どんな場であっても丁寧な言葉を使うこと等について、指導を継続していく。

(4) 家庭生活

◎家庭学習の取組

- 家庭学習の意義は？ 意義に応じた「内容」「量」「環境」は？ 子供にどう指導するか？
保護者にどう働きかけるか？
 - ・低学年では家庭学習に取り組んでいる。中学年以上になると、意欲的に取り組んでいる子が固定化してくる。
家庭でコメントを入れている子が、意欲的になっている。
- 保護者の方が見ることも大切。今後も働き掛けていく。
- (仙台市生活状況調査結果の報告の中で、1日あたりの学習時間の目安や、計画的に取り組むこと等について保護者へ依頼済み)

◎就寝時刻が遅くなること

- 子供や保護者にどう働きかけるか？
- 本アンケートを継続する中で、振り返りをしていただき、改善につなげていく。
- (仙台市生活状況調査結果の報告の中で、お子さんと話し合い、規則正しい生活をする事について保護者へ依頼済み)

(5) 休み時間の運動の推奨

- 今年度、児童の意識が低下した要因は？ 子供にどう働きかけるか？
 - ・コロナの状況、夏の暑さ等の要因で、子供たちが外遊びをする機会が減っている。このような状況の中でも、子供たちは上手に遊び、発散しているのではないか。
 - ・感染予防の観点から「～をしない」というルールを設ける時期もあった。体力を上げることが、感染予防につながることを学ばせたい。

- ・「遊具はダメ」「鬼ごっこはダメ」で、どう遊ばせたらよいかと感じた。夏の暑さ、冬の寒さもあり、体調管理に重点を置いた一年だった。
 - ・コロナの影響からか、今年度肥満の児童がものすごく増えた。登校が再開されると、若干改善した。普段の運動の推奨が大事。
 - ・コロナや天候の影響がある。運動会前、なわとびダンスの練習で積極的に外に出ていた。目標の設定が大事。
 - ・(職員記述にあるように)外遊びタイム、全校なわとびタイム等、外で遊ぶ必然性を持たせる取組をするのもよい。
 - ・学習の中に、外遊びにつながる内容を取り入れたことで、積極的に外に出るようになった。
 - ・外遊びをしない子もいるが、大縄大会のイベントや、体育部で作成した縄跳びカードの奨励を進めていきたい。
 - ・体力の向上を目指すのであれば、外遊びの推奨ではなく、体育の指導の充実を進めるべき。
- コロナ禍で、外遊びの推奨は難しい面があった。学習の中で目標を設定し、体力の向上を図っていく。

(6) 子供自身の評価と大人の評価との違い

○子供の意欲を向上させるには？

→子供を見る、認める、褒める、励ます。

(仙台市生活状況調査結果の報告の中で、コミュニケーションの時間を取り、子供たちを受け止め、自己肯定感を高めていくことを保護者へ依頼済み)

(7) 保護者が「心にゆとりを持って、子供の思いを笑顔で受け止める」取組は？

→よい取組があれば、共有していく。